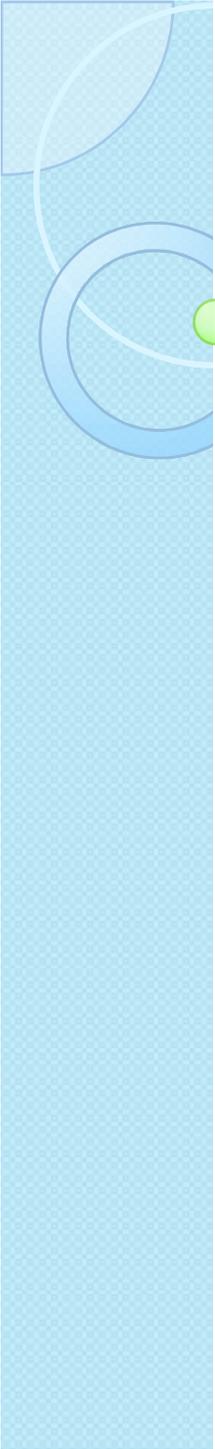


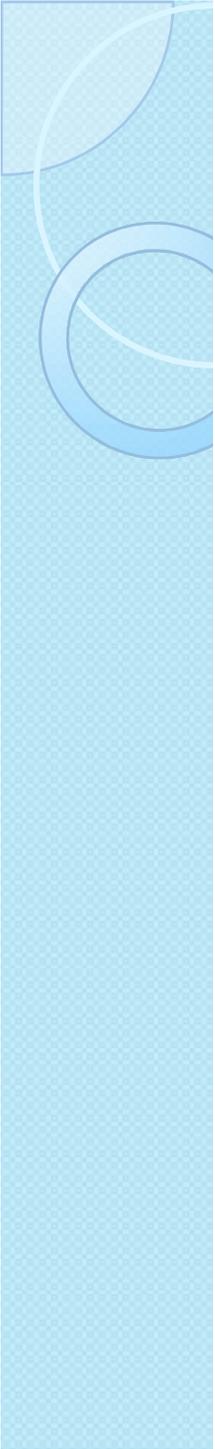
平成20年度第94回全国図書館大会兵庫大会  
公共図書館分科会講演資料



# 地域の人々に役立つ公共図書館を目指して

(全国図書館大会第1分科会 公共図書館部会)

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科  
専任講師 濱田幸夫



# 目次

- 1 図書館経営について
- 2 自治体の一機関であるということ
- 3 図書館サービス計画の作成
- 4 図書館広報
- 5 業務委託
- 6 終わりに

# 1 図書館経営について

- 図書館経営論は、図書館サービス論と同様に、図書館職員の専門性が期待される場面である。
- 図書館経営は、館長や管理職だけが考えればよいものではない。
- 仕事を始めたばかりの係員にも、図書館経営を考える場面は存在する。

## 2 自治体の一機関であるということ

- 利用者のニーズに応じたサービスを実施すべき、ということ。
- 同時に、  
「予算や職員は、自治体全体の状況に左右される」ということを意味する。
- さらに、  
「予算や職員を決定するのは、財政課や人事課、総務課である」ということ。

## 2-2 それでは、、、

- 図書館が、予算や職員を獲得するための取組は、どうあるべきか。
- これまで、図書館が大きく振興した自治体では首長(知事や市長)が、図書館に理解があった、という指摘がある。
- 現に、図書館に関心のない首長であったなら、「図書館が働きかけて、図書館に関心を持ってもらう」必要がある。

### 3 図書館サービス計画の作成

- サービス計画作成の効果とは、
  - 図書館の将来像を明確にすること
  - 図書館の現状と理想像の乖離を明確化
  - まず実施すべきサービスのリストアップ
  - 必要な予算額の確定と効果の明確化
- 公務員組織では、全体計画の明確化は、予算獲得に必須。
- 全体像と必要額・実施期間が明確になると、予算獲得の説得力UP。

## 3-2 サービス計画策定の現状

- 計画を策定していない図書館が多い。  
(本年2月の調査によれば、最近開館した図書館の約半数が未策定)

開館前に策定した	39館
開館後に策定した	4館
現在策定中	3館
策定していない	43館
その他・無回答	7館

(平成14年度から19年度に未設置解消した図書館を対象に調査)

- 未策定の理由は、日常業務の多忙が最も多い。

### 3-3 ちょっと横道に逸れますが、

- 日常業務の重要性は、もちろん。
- カウンターに並んでいる利用者を待たせることはできない、という心情も分かります。
- でも、将来の図書館のあり方を考えること、来年度に取り組むべき重点事業を計画することは、日常業務と同じくらい重要なことでは？
- より専門性が必要な業務は何か、司書の専門性を勘案した優先順位付けが必要であろう。
- 昔は、正規職員が担った仕事である。しかし、自治体全体で業務の見直しや委託の推進が進められている。図書館だけが例外なのか。

## 3-4 日常業務の負担軽減の方策 (実例)

- 自動貸出機の導入
- 団体貸出のパッケージ化



## 4 図書館広報

- 利用できる広報の手法は多様化している。
- 対象と時期を考えて、効果的に行うべき。
- 図書館利用者だけでなく、
  - ①潜在的利用者（図書館を利用しない住民）
  - ②行政関係者
  - ③首長、議会議員
  - ④マスコミ向けなども対象に、計画的・戦略的に実施すべき。
- 昨年まで行っていたからといった、漫然とした取組は見直すべき。

## 5 業務委託

- 地方自治法の改正により、管理委託から指定管理の導入へ。
- 公立図書館への業務委託の導入の検討は、相当の関心を持たれている。  
(2003年総務省調査)
  - 施設の運営事務における委託実施施設の比率
    - 図書館(市区町村統計) → 74%(うち全部委託:3%)
  - 今後外部委託を実施したい分野
    - 図書館(市区町村統計) → 7.3%(=19位中5位)
- 自治体全体で、行政改革・業務委託が進められている中で、図書館はどう対応すべきか。

- 
- 図書館の役割と利用者ニーズを分析して、図書館の機能を損なわないような業務委託の導入方法・範囲を検討すべき。
  - 利用者の望む図書館サービスの向上とは、どういうことか、利用者の視点に立った検討が必要。
  - そのため、検討は図書館が主導的に検討・実施できるよう先手を打つ必要がある。

## 5-2 北広島市の例

- 平成15年度に市民調査(来館者、登録者、非登録者向け)を実施。
- 開館時間の延長など、サービス充実を求める声が多い。
- 一方で、回答者の約75%が図書館経費の増額を望まないと回答。(当時人口1人あたり3,346円)

もっと費用をかけてもサービス水準を向上させるべき	24.9%
現状のままでよい	66.6%
費用がかかりすぎなのでサービス水準をおとす	8.5%



- その結果、

- サービス向上と正規職員の業務改善を目的として、カウンター業務の委託を実施
- 図書館には、学校との連携、ボランティアとの連携等を担当する司書(正規職員)2名を配置
- 教育委員会に、「生涯学習指導班」を設置し、司書を配置、将来に渡る図書館の企画・運営体制を確保
- 行政改革室、総務課等との連携した取組の結果、委託経費総額で前年額を上回る予算額を確保

## 6 終わりに

- 生涯学習社会における公共図書館の役割について、もう一度考えてみよう。



三木鉄道(平成20年3月31日廃止)